

よさのてっかん
与謝野鉄幹

周南市
(1873～1935)



【著作】

『孝女阿米』（明治29・防長婦人相愛会）
詩歌集『片袖』第1～3（明治34～35、東京新詩社）
『明治文学全集』第51（昭和52・筑摩書房）ほか

与謝野寛（鉄幹）は兄照幢が徳山の赤松連城の養子となり、徳心寺に私立白蓮女学校（後に私立徳山女学校）を開校した際に、国語漢文の教師として招かれて徳山に来た。時に明治二十二年（一八八九）、寛十七歳の時である。徳山では兄の法務を手伝い、「積善会雑誌」の編集や、兄の命で『孝女阿米伝』を書き、「大田垣蓮月尼伝」などを東京の婦人雑誌に寄稿するなど文学活動が徳山時代から始まっている。

明治二十五年（一八九二）二十歳の時、一旦京都に帰り、後に落合直文を頼って上京したが、徳山滞在の三カ年は、寛にとつて忘れがたい青春の一時代であった。

明治三十一年（一八九八）、父礼厳が徳山で病死した時、寛は看病と葬儀のため徳山に来たが、女学校時代の教え子、浅田サダと再会した。そしてこの年十月、「今ぞ我手に」と言う詩を発表した。翌年四月には「周防の浅田氏に宿りて」という歌も作っている。その後、寛を追って上京したサダは寛の子「ふき子」を出産したが、一ヶ月足らずで死亡し、これを悼んで『読売新聞』に「行く秋」を発表した。寛と別れたサダは東京女高師に入り、後に山口女学校、大阪のブル女学院の教師を勤めた。

ふき子が死に、サダと別れた寛はその秋、徳山の女学校の卒業生林タキノを佐波郡出雲村（山口市）に訪い、仮祝言をして上京し、麴町に居を構えて『東京新詩社』の看板を掲げ、『明星』を発行した。発行名義人は林タキノである。明治三十三年（一九〇〇）九月、萃（あつむ）が生まれたが、翌年四月、タキノは『新詩社』の華やかさ、寛の性格についてゆけず、離婚して郷里に帰った。因みに寛はその年九月、鳳晶子と結婚した。

その後、寛は折々徳山に立ち寄ったが、昭和九年、徳山鉄板会社（日新製鋼の前身）の社歌の作詞を依頼され、下見のため来徳し、「徳山にて」の二十首を作った。歌碑の一首はこの時のもので、昭和三十八年（一九六三）五月、揮毫した佐藤春夫を迎えて蛇島で除幕式を行った。（碑は後に太華山頂に移築された。）

「彼のあたり二十の前の我を知る
蛇島 仙島 黒髪（くろかみ）の島」

（文・玉野由槻雄）



歌碑（周南市太華山）

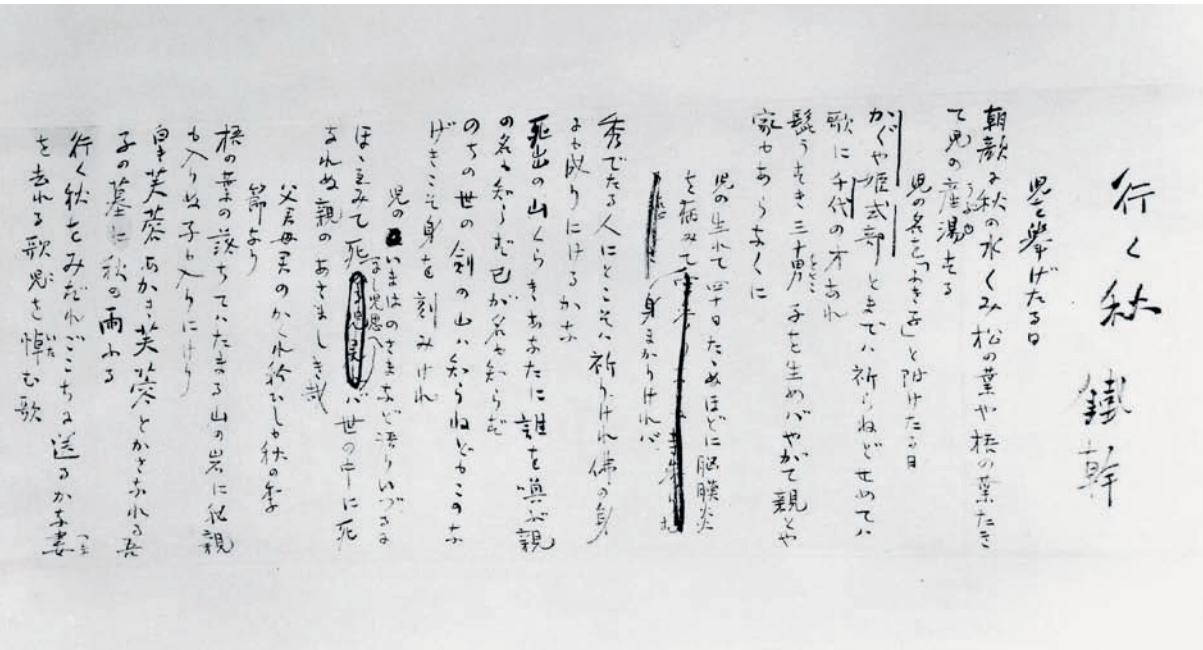


赤松照幢一家と
後列中央鉄幹、中列照幢、安子



私立徳山女学校第一回卒業記念写真
中央右端鉄幹、前列右端浅田サダ

「行く秋」草稿



我が子の出生、死亡を歌う

与謝野鉄幹 年譜

明治6（一八七三）年	
明治13（一八八〇）年	七歳
明治15（一八八二）年	九歳
明治16（一八八三）年	一〇歳
明治19（一八八六）年	一三歳
明治20（一八八七）年	一四歳
明治22（一八八九）年	一六歳
明治25（一八九二）年	一九歳
明治28（一八九五）年	二二歳
明治29（一八九六）年	二三歳
明治31（一八九八）年	二五歳
明治32（一八九九）年	二六歳
明治33（一九〇〇）年	二七歳
明治34（一九〇一）年	二八歳
明治44（一九一二年）年	三八歳
明治45（一九一三年）年	三九歳
大正5（一九一六年）年	四三歳
大正10（一九二一年）年	四八歳
昭和9（一九三四年）年	六二歳
昭和10（一九三五年）年	六二歳

3月26日、京都市外岡崎村の西本願寺支院、願成寺に生まれる。本名、寛。父禮厳、母初枝の四男。長兄大圓、仲兄照幢、三兄巖がいた。父の事業失敗により一家を挙げて鹿児島に移住する。京都の発願寺の鈴木忍宏の養子となる。大阪府下の安養寺の安藤秀乗の養子となる。岡山の長兄和田大圓の安住院に身を寄せる。仲兄照幢、徳山（現・周南市）の徳応寺の赤松連城の養子となり、安子と結婚。徳山婦人講習会を設立。徳山婦人講習会の規模を拡張して私立白蓮女学校を創立（のち、私立徳山女学校と改称）。父の命によりやむなく、西本願寺において得度、礼讓の法号を受ける。4月、徳山町に赴き、照幢の経営する私立徳山女学校の国語漢文の教員となる。その後二年間、兄の発行する『積善会雑誌』（のちに『善の導き』と改題）を編集する。兄の愛読する『柵草紙』により森鷗外、落合直文の文章に親しむ。兄の命により「孝女阿米伝」を執筆。博文館発行の婦女雑誌に「太田垣蓮月尼伝」「歌話」を寄稿。3月、私立徳山女学校を辞して京都に帰る。9月、上京し、異母兄の援助を得て文学雑誌『鳳雛』を刊行。4月、渡韓。韓国政府学部省乙未義塾の教師として赴任。明治書院の創業に当たり、その編集部主任となる。跡見女学校の国文科教師となる。防長婦人相愛会より『孝女阿米』刊行。父礼厳徳山にて病み、寛、長兄和田大圓とともに来て看護す。8月17日父礼厳死去。4月、「周防の浅田氏に宿りて」短歌発表。8月6日、私立徳山女学校時代の生徒浅田サダ、寛の子、ふき子を生む。9月17日、ふき子病死。寛、サダと離別す。10月、女学校卒業生林タキノと結婚。4月、寛、タキノと『明星』創刊。9月、タキノ、寛との間に長男萃を生む。4月、寛、タキノと離別。秋、鳳晶子と結婚。欧州へ遊学の資金調達のため、来徳。4月、私立徳山女学校閉校記念講演会に来徳。文化学院を創立。『明星』を復活。徳山鉄板会社の社歌の作詞を依頼されて視察のため来徳。3月26日、肺炎のため死去。